



働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう 第96回日比谷メーデー開催

5月1日、青空の広がった東京の地で、第96回日比谷メーデーが約3,000人（主催者発表）の参加で開催された。東京支部からも退職者の会の方々を含めて65人が参加して、「大幅賃上げ実現」「9条改憲反対」を訴えながら土橋までデモ行進をした。

日比谷メーデーは、今年10月からの施設使用中止が発表されており、今回が最後となる。メーデーが分裂した1989年から36回の集会を開いてきた。

労働者が資本に抗して闘い続け、諸要求を勝ち取るためには事情はいろいろあるだろうが、近い将来再び統一メーデーを開催し、多くの労働者が「連帯と団結」していくことが必要ではないだろうか。

いろいろと考えさせられたメーデーでもあった。



メーデーの起源

元々はヨーロッパの春の訪れを祝う祭りでした。19世紀のアメリカで労働状況の改善を求める労働者の声が集まる日となりました。特に1886年5月1日、シカゴで8時間労働制を求める大規模なストライキが行われたことが大きな転換点となり、労働者の祭典としてのメーデーが確立されました。

日本では1920年5月2日に第1回メーデーが開催され、今年で96回目のメーデーとなりました。

現在は、連合、全労連、全労協と分かれての開催となっています。

38,000人の仲間が参加 有明防災公園で大集会

5月3日、有明防災公園に於いて「2025憲法大集会」が開催された。「未来は変えられる！戦争ではなく平和な暮らし」をメインスローガンに掲げ、約38,000人（主催者発表）が参加した。世界はウクライナ・ガザ問題をはじめ、排外主義と分断が吹き荒れている。憲法9条を守り「二度と戦争はしない、させない」世論を形成し、一人ひとりが行動に参加して訴えていく必要がある。

参加した仲間の声に学びながら考えてみたい。

行動するのが第一歩

「日本は本当に憲法が守られているのでしょうか？沖縄では毎日が爆音、米兵による性的暴行が繰り返され、沖縄が犠牲になることはもう終わりにしたい。私は今いるこの東京の地でその事を訴え、ここから変えたい」集会の中で沖縄出身の東京の大学に通っている学生の訴えです。米軍・日本政府へ向けた激しい怒り、そして行動を起こさない自分たちに向けたメッセージでした。



私たちは労働組合に加入し、平和や憲法についても方針として掲げ、自身もこの集会のような行動にも参加してきました。しかしこの彼女の思い、決意のように、憲法・平和について考えて行動ができていたでしょうか？

報道番組を見ると中国の脅威が大々的に宣伝され、ともすれば職場の中でも、中国に対するネガティブな言動も垣間見られます。しかしそれに対し、何も言わずそれを黙してきた自分もいます。

「本当にそうなのだろうか？」と職場の中で少しだけ仲間と話すことが大切だと改めて感じました。

今日参加した3万8千人が、もう一歩何らかの行動を起こせば社会は変わるかもしれない。そんな事を考えさせられた今日の集会でした。

東京総合車両センター分会 佐藤 誠

5・31支部BBQ交流会

仲間を誘って参加しよう！

場所：新宿京王デパート屋上
時間：10時30分～13時30分
会費：一人1,000円

